

# 次の100年に向けて 滋賀大学の新しい1ページをここから

滋賀大学の源流は、明治・大正時代、近江の地に誕生した2つの学校。

そのひとつで、1923年に開校した彦根高等商業学校は経済学部の前身です。

「士魂商才」という建学の精神は、滋賀大学経済学部にも受け継がれ、2023年に100周年を迎えました。

そこで、竹村彰通学長と3学部の学生たちが集まり、その歴史と文化を背景に、

「未来創生大学」として進化を続ける滋賀大学の魅力と展望について、語り合いました。

※新型コロナウイルス感染対策に配慮して実施しました。  
※学年は2023年3月時点

## 卒業生の功績から 歴史の厚みを実感

**竹村** 皆さんは学生生活を送る中で、滋賀大学の歴史や伝統を感じたことはありますか。

**伊藤** 私は入学直後に開催された新入生オリエンテーションで、彦根キャンパスにある滋賀大学経済学部附属史料館を訪れました。そこで、近江の経済の変遷や近江商人の歩みなどの展示を見学したのですが、伊藤忠商事、丸紅という2つの大手総合商社を創業した伊藤忠兵衛が近江の生まれであり、彦根高等商業学校の創立にも関わったことを学びました。伊藤忠、丸紅の名前は耳にしたことがありましたが、近江、滋賀大学に縁があることに驚き、歴史ある大学で学べることを誇りに思いました。

**川岸** 私も入学してから教育学部が経済学部と同様に歴史があり、明治時代に創立された滋賀県師範学校が前身だと知りました。教育学部がある大津キャンパスの図書館の蔵書の多さに驚き、そこからも歴史の長さが伝わってきました。教育関連の書籍が古書から新書まで豊富に揃っているの、資料探しがスムーズに進み、勉強がいきそうはかどりました。

もう一つは、教育学部出身の方がさまざまな教育機関で活躍されているので、教育実習や教員採用試験対策講座で直接教えていただく機会が多々ありました。伝統と

実績の恩恵を受けることができ、ありがたいと思います。

**伊藤** 卒業生の活躍は、経済学部も同様に、就職活動中、数多くのOB・OGの方と出会い、そのつながりで別の卒業生や企業を紹介いただくこともありました。中には大手企業の経営者の方もいらっしゃって、いろいろな話を聞く機会に恵まれ、勉強になりました。

**栗野** データサイエンス学部(以下DS学部)は2017年に誕生した新学部ですが、経済学部と非常に親和性の高い学部です。DSに対する昨今の社会の期待値の大きさに加えて、滋賀大学と経済学部の実績もあって、授業では実際の企業で活躍されている数多くの方が、外部講師として社会や経済でのDSの活用法、重要性について教えてくださいました。私は3期生ですが、1期生が社会で活躍している姿を知ることでもできました。私たちも追隨して、DS学部独自の新たな歴史を作っていきたいと思っています。

**竹村** 皆さんがさまざまなことから滋賀大学の歴史と伝統を実感してくれて、うれしく思います。卒業生たちは学生のロールモデルであり、滋賀大学の歴史を築く「人財」です。卒業生が活躍してこそ、滋賀大学がめざす社会貢献が叶い、外部講師招聘やインターンシップ、共同研究をはじめとする地域・社会連携もいっそう進んでいくと思います。



滋賀大学経済学部附属史料館

(写真左から)

**竹村 彰通** 学長

2015年、滋賀大学に着任。データサイエンス教育研究推進室教授、データサイエンス研究センター長・教授を経て、2022年4月から現職。

**栗野 志穂**

データサイエンス学部 4回生  
洛北高校(京都府)

**川岸 潤花**

教育学部 4回生  
宇治山田高校(三重県)

**伊藤 ユウキ**

経済学部 4回生  
甲府南高校(山梨県)



彦根高等商業学校が開校した翌年(1924年)に建築された滋賀大学講堂(彦根キャンパス)。登録有形文化財

## 知見も視野も広がった 独自の学びと活動

**竹村** 滋賀大学は「未来創生大学」として新たな改革を進めています。皆さんは4年間で進化や変化を感じることはありましたか。

**栗野** 進化というか、学びのスタイルそのものが変わったというのが、コロナ禍によるオンライン授業ではないでしょうか。先生への質問や学生同士でのディスカッションは慣れるまで苦労しました。

**川岸** 私も対面であれば問題のなかったやりとりがスムーズにできないと感じることがありました。一方、復習や課題のために、オンデマンドで配信される授業の動画や先生が作成された資料をいつでも見ること

ができるのは大きなメリットだと思います。

**伊藤** そうですね。私は遠方にある実家からオンライン授業を受けていたので、どこからでも学ぶことができるという大学の効率化が進んだことを強く感じました。

**竹村** 必要に迫られてのオンライン授業の導入でしたが、教える側、学ぶ側のインフラが整ったと思います。現在はオンラインと対面のハイブリット型授業も行い、学生がさらに学びやすい環境整備を進めています。そして、改革のひとつとして、2022年度からは全学部で「数理・DS・AI教育プログラム」を必修化するなど、新たな学びも始まりました。そこで皆さんにとって、「滋賀大学だからこそ実現した」学びや得た知見について教えてください。

## 彦根高商から経済学部へ

滋賀大学経済学部の前身は、1923年に開校した彦根高等商業学校です。その歩みを簡単にご紹介します。

1875  
小学校教員伝習所設置  
(のちの滋賀県師範学校)

1922  
彦根高等商業学校設置

1923  
彦根高等商業学校開校

1949  
滋賀大学が開学 ←

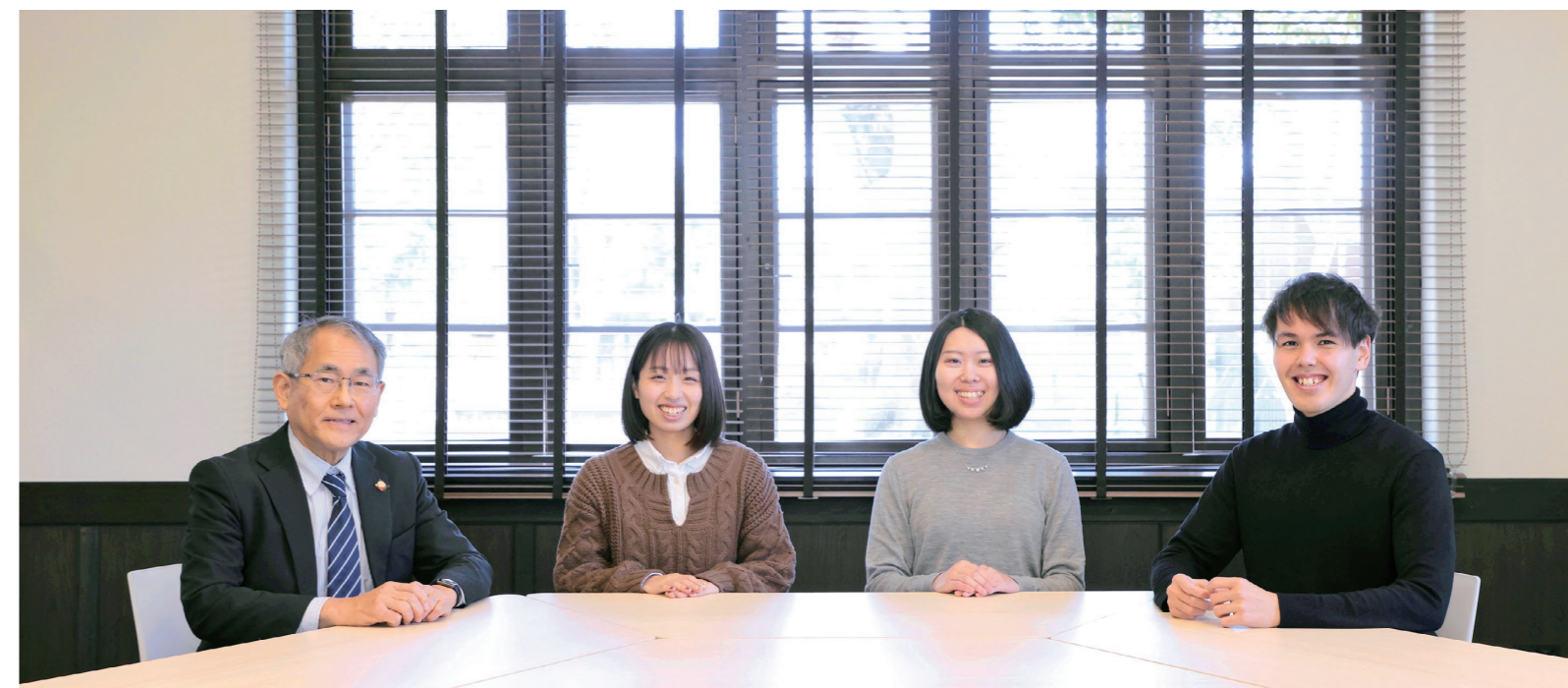
経済学部と学芸学部(現在の教育学部)の2学部制。  
経済学部は経済学科と経営学科の2学科体制でスタート。

1972  
経済学部に管理科学科設置  
1990に情報管理学科に改編。  
データサイエンス学部の創設にともない学生募集を停止。

2017  
データサイエンス学部創設



大正時代の正門(彦根キャンパス)



座談会は2022年に耐震工事改装が終了した彦根キャンパスの陵水会館で実施しました



### 滋賀大学の代表として 企業、社会で貢献

**竹村** これから滋賀大学での学びをどのように活かしていきますか。

**川岸** 私は教育実習やCISの活動を通じて、相手の立場に立って物事を考え、多様性を理解すること、コミュニケーションをしっかりとることの大切さを学びました。これは子どもの成長や教育にも重要で、きちんと伝えていくにはどうすればいいのかを考えた結果、学校の教壇ではなく、児童施設の教員として勤務することを選択しました。教育学部で学んだことを活かし、子どもに寄り添い、成長を支えていきたいです。

**伊藤** 私は入学時に学んだ伊藤忠兵衛の存在もきっかけとなり、春から総合商社で勤務することになりました。宮西賢次先生のゼミで高めてきた財務諸表分析や企業価値評価などの専門性と、DSの授業や株式投資研究会で身につけた知見を活かし、日本を強くすることが目標です。というのも、物心ついた時から日本が世界で勝っている感覚がなく、大学で学ぶ中で、経済においても日本の優位性が低下していることを痛感したので。

**栗野** 私は食品メーカーの情報企画部門に専門職採用で内定をいただきました。就職活動を通じて、多くの企業でDX化が加速し、DSの知見を持つ人材が求められていることを実感しました。DS学部の学生は、知識としてだけでなく、実社会におけるデータの活かし方を身につけてきたので、それを発揮していきます。

**竹村** 現在、栗野さんの採用のように、企業では仕事や部門に対応する専門性を有した人材を獲得する「ジョブ型採用」が主流になってきました。滋賀大学は3学部とも専門性を極める環境が整っているので、これからの採用にも対応していけると思います。また、卒業後の進路や働き方として女性活躍の支援、アントレプレナーシップの醸成による滋賀大学からの起業もいっそう推進していきたいと考えています。

こそ。この会にはDS学部の学生も所属していて、共にプロジェクトに取り組むことで知見が広がりました。

**川岸** 私は教育学部の国際交流サークル(以下CIS)に所属し、滋賀大学への留学生との交流や国際理解を深めてきました。コロナ禍で思うようにいかないこともありましたが、オンラインで交流会を開催したり、留学生の相談に答えたり、海外にルーツを持つ子どもと接する機会もありました。学業と並行して充実した活動ができ、視野が広がったと思います。

**伊藤** 私は3回生の時に海外へ留学しましたが、たしかに異なる文化、価値観に接すると視野が広がりますね。

**竹村** 「未来創生大学」の取り組みでは、「グローバル」も掲げています。伊藤忠兵衛をはじめ、近江商人の多くは湖国に密着しながら、全国、そして世界へと羽ばたき、成功を収めました。ですので、学生の多くに国際交流を通じて、世界にも目を向ける近江商人のスピリッツが継承されているのはうれしく思います。

**伊藤** 経済学部は履修科目の範囲や選択の自由度が高いので、DS学部の授業も履修しました。Z世代と呼ばれる今の学生にとってデータは身近な存在であり、それが社会で活用されていることは当然のことと理解しています。なので、DSが全学部で学べることは、滋賀大学の新たな強みになるのではないのでしょうか。

**竹村** そうですね。経済分野だけでなく、例えば小学校でプログラミングが必須化されるなど、教育分野でもデータの活用が進んでいるので、教師になる学生もDSの知見が必要になってきます。

**栗野** 私は大手企業でデータサイエンティストとして活躍されていた河本薫先生のゼミに所属し、連携する企業の実データを使った新たな活用法の構築や課題解決に取り組んできました。データを実際にどのように活かすかを学べたことは、これからの大きなプラスになったと思います。

**伊藤** 経済学部の団体「株式投資研究会」に所属し、株式の勉強を通じて経済への理解を深められたことも、滋賀大学だから



### 「つながり」を強固に 次の100年に邁進

**竹村** 最後に、「未来創生」のためにこれからの滋賀大学への期待、要望を聞かせてください。

**伊藤** コロナ禍の影響で失われつつあった、学年や学部の枠を超えた縦・横のつながりを再構築してほしいです。私が入学した時は、滋賀大学で伝統的に続く、クラブやサークルの新入生勧誘イベント「とおりゃんせ」が彦根キャンパスで開催されていました。その時に声をかけてもらった先輩や知り合った同級生は、大学生活で大変頼りになりました。とくに先輩からは、授業の内容や履修の方法などを教えてもらい、その後の学びに役立ちました。

**川岸** 教育学部ではコロナ禍でも先輩たちによる相談会が開催されていて、履修のアドバイスや教員実習、採用試験の情報収集のサポートをいただき、助かりました。

**栗野** 私はバスケットボール部に所属していたので、縦・横のつながりを持っていましたが、それ以外につながりの機会がなか

ななくて……。滋賀大学は全学で交流を図るのにちょうどいい規模や人数ですよ。今後は3学部が授業はもちろん、授業以外でも交流できる機会があると、学生の学びや成長にいい相乗効果を生むのではと思います。

**竹村** コロナ禍で導入されたオンラインの活用は距離的・時間的制約がなく、効率化も図れます。ただ、学生同士、教員と学生の対話や絆の構築においては、Face to Faceのつながりも不可欠だと、誰もが気づいたのではないのでしょうか。オンライン授業でも双方向の仕組みを作り、対面の授業で行われていた流れや、学生からの質問などに応じて、黒板・ホワイトボードに板書していたようなアナログ的要素もいかに取り入れるかが、これからの教育や教員に求められるのではないかと考えています。

**伊藤** 滋賀大学の先生も卒業生も素晴らしい方ばかりです。在学生も新入生ももっと貪欲に学んで知見を習得し、全学部とのつながりも構築してほしいし、先生方も滋賀大学と滋賀大生、そして卒業生に期待してもらえると嬉しいです。



**竹村** そういう言葉は私たちへの励みになります。今後は卒業生にとっても滋賀大学が学び・交流の場となることをめざして、生涯教育や転職・起業支援なども構想しています。

**栗野** リカレント教育には興味があります。また卒業生として何かできることがあれば協力していきたいです。

**竹村** 今、地方国立大学には「地方創生」が求められています。大都市集中による地域の産業・経済の担い手不足といった課題において、大学では人材派遣、共同研究といった解決、貢献できる要素が多々あります。そのために、県内の商工会議所や教育委員会などの連携を一段と深めていきます。次の100年に向かって、滋賀大学は歴史や伝統も大切に、教員と学生、卒業生、そして地域とつながり、新たな取り組みにおいて未来創生、地方創生を実現します。



### 同窓会組織「陵水会」

経済学部とDS学部、各学部大学院の教育・研究活動への支援、学生の就職活動への支援、「陵水奨学金」「グローバルリーダー育成陵水奨学金」の給付のほか、学生の諸活動の支援、実業界における同窓生の連携と幅広く活動している。

### 陵水会館 / 彦根キャンパス(座談会の会場)

彦根高等商業学校の同窓会館として、1938年建築、設計は建築家ウィリアム・メレル・ヴォーリズ。スペイン風ゴシック様式の建物は、滋賀大学経済学部・DS学部の同窓会組織「陵水会」に引き継がれ、1997年に「文化財建造物」として登録された。2022年に耐震工事改装が終わり、セミナールームなどを有する未来志向の空間は、統計エキスパート育成事業の拠点となっている。

